

米国での複合機再生事業を本格始動 標準生産方式の横展開によりグローバルで事業を推進

キヤノンは、複合機再生（リマニュファクチャリング）事業のグローバル展開を推進していきます。これに伴い、2026年4月より、キヤノンバージニアで再生複合機の生産を開始し、米国での複合機再生事業を本格始動します。



キヤノンバージニア外観

キヤノンは、回収した使用済み複合機を独自の技術で新品同様に再生し商品化する、複合機再生事業に取り組んでいます。現在、再生複合機は、キヤノンエコロジィングダストリー（茨城県）、キヤノンギーセン（ドイツ）で生産しており、日本、欧州市場向けに事業活動を行っています。このたび、これらの拠点と共に確立してきた生産工程・再生技術を、標準生産方式としてキヤノンバージニア（米国）へ横展開することで、再生複合機生産拠点を拡大します。

キヤノンの複合機は、製品のクラスごとに本体の骨格を統一化する「プラットフォーム型開発」の思想をもとに設計しており、部品・ユニットはもちろん、分解や組み立てなどの工程も共通化しています。異なる機種でも、同一クラス内であれば共通の部品・ユニットが使用できるだけでなく、共通の組立手順や生産ライン、品質基準が活用できるため、効率的な生産と品質の維持が可能です。加えて、再生複合機生産工程では、回収した複合機の稼働年数や部品交換履歴、プリント枚数などといった市場稼働時のデータに基づいて、部品の再使用可否を判定しています。交換が必要とされる部品がリスト化され、再使用できる部品を最大限活用できるため、再生の効率化が図れます。これらの取り組みをグローバルで共通の標準生産方式とすることにより、新たに稼働する拠点やラインにおいても、製品1台あたりの部品リユース率90%以上の高い環境性能、新品同様の高品質・高性能、低価格を実現した再生複合機が提供できます。

キヤノンバージニアでは、本生産方式を採用するとともに、キヤノン USA と共同で米国内の複合機回収網を整え、安定した再生複合機需要の見込まれる米国での複合機再生事業を本格始動します。

キヤノンは今後も消費地域で資源循環ができる体制をグローバルに構築し、複合機再生事業を継続・拡大することで、循環型社会の形成に貢献していきます。